

# THE GOLD

[海外特集]

## ニュージーランド 神秘の大自然に包まれて

[国内特集]

## 愛すべき秋の京都

[趣味のある休日]

## オペラの愉楽



世界にひとつ。  
あなたにひとつ。

## 世界に広がる「カーキ」の味

マントヴァに住むオペラ歌手、山本耕平君曰く、

「イタリアでも『柿』はカーキなんですよ、日本語と同じで。でも語尾がIだから複数形だと信じて、単数はカーキと言ったりもします。面白いですね」

少し補足しておきましょう。イタリア語では名詞の語尾を変化させて単数形か複数形かを示します。男性名詞の単数形はOで終わるものが多く、複数になるとIに変化。一方、女性名詞の単数形はAで終わるのが普通で、その複数形はたいいてい語尾がEになるようです。東アジア原産の柿をヨーロッパに伝えたのはポルトガル人ですが、うですが、かのムツソリーニが奨励したこともあり（いろんなことをされてますね）、現在の地域ではイタリアが断トツの生産量を誇ります。ですからイタリア人が『柿』を自分達の国の果物だと考えても不思議じゃありません。つまりカーキという単語が先にあり、単数形に変化してカーキとなったという具合に。

『柿』よりも『梨』で有名な鳥取県出身の山本耕平君は、まだ三十歳を少し超えたばかり。でも既にメジャーデビューを果たし大好評。日本を代表するテノールとして将来を囑望されている存在です。その心に沁みる歌唱は図抜けていて、実はもう何年も前から追いかけています。いずれ日本でもまた、大きな舞台に立つはずですよ。

やっぱり

食いしん坊な

歳時記

文・辰巳琢郎



で、是非お聴きください。大声で「ブラーヴォー」と叫びたくなること請け合いです。

補足というか蛇足をもう少し。イタリア語は形容詞の語尾も単複男女で変化します。即ち「ブラーヴォ（素晴らしい）！」は一人の男性に対して発する掛け声であり、相手が女性だと「ブラーヴァー」が正しいのです。女性が複数いたら「ブラーヴェー」と叫べば格好よく、男性複数や男女混合の時は「ブラーヴィー」。これで貴方もオペラ通です。

自分が住んでいる町が最高で、地元食材で造った料理が世界一旨い、イタリアに行く度にそんな言葉を聞き、いつも羨ましくて仕方ありません。謙譲の美德も大切ですが、もう少し主張したくなってきた今日この頃、日本の本当に美味しいフルーツ達も、もつともっと世界に羽ばたいて欲しいものです。中でも「神がこの世に与えた果物の申し子」と正岡子規が表現した『柿』こそ、その代表選手。何しろ学名まで「カキ」なのですから。

味わいばかりか栄養価も優れているのも『柿』の特徴です。ビタミンCはレモンやイチゴに負けていませんし、他のビタミン類やミネラル、タンニンも豊富。「柿が赤くなると医者青くなる」という諺も頷けます。利尿作用もあり、二日酔いにも効くというのも酒飲みにはありがたい。高浜虚子の句には、こんなものもあります。

水飲むが如く柿食ふ酔のあと



やっぱり

食いしん坊な

歳時記

和歌の世界では花がよく詠まれていましたが、柿のよ  
うな庶民的な食べ物が季節を表すようになったのは、俳  
句からだそうです。子規のあまりにも有名な句、

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

も、そんな風に考えると味わい深くなりますね。

「高級なお店で、デザートに柿が出てくると、どうしてなの？って、損した気になっちゃうのよねえ……」

『柿』は木からでも食べるものだったという、山梨県出身の林真理子先生の発言です。一昔前までは、日本人にとって最も身近な果物だったでしょう。納得出来る言葉ですね。個人的には、最も嬉しい水菓子ですが。

今や『柿』もどんどん高級品になってきた感があります。干し柿もしかり。こちらも大好物で、こればかりはお歳暮などに頂いても、誰にもお裾分けをしません。ところが昨年は、暖冬で湿度も高かったせいか、干し柿作りが大変な打撃を受けたようで、どこからも届かず終い。季節が一つ欠落したようで、寂しい年越しでした。

辰巳琢郎 たつみたくろう

俳優。1958年生まれ。京都大学在学中に「劇団そとばこまち」を主宰し、80年代前半の学生演劇ブームの立役者となる。卒業と同時にNHK朝の連続テレビ小説「ロマンス」でデビュー。以来、知性・品格・遊び心と三拍子揃った俳優として活躍中。テレビ、映画、舞台、CMのほか、クラシックコンサート、司会や演出、執筆活動などに多忙な毎日。食通、ワイン通としても知られ、「日本ワインを愛する会」副会長、日本ソムリエ協会名誉ソムリエなどに就任。観光庁アドバイザーも務める。食いだおれの街、大阪出身。NHK朝の連続テレビ小説「あさが来た」の眉山栄達役が記憶に新しい。